

---

---

## まとめ

---

---



## まとめ

「旧東京北部小包集中局跡地」は約1万平方メートルと、本区において最大の用地であり、その活用により、地域のまちづくりの核となり、賑わいを生み出すことができる、大変魅力的な用地である。

区では、これまで2度にわたる基礎調査のほか、民間事業者からの提案募集などを行い、当該跡地の活用について検討を進めてきたが、現在まで活用に関する区の考えを取りまとめるに至っていない。

今回の調査では、より現実的な活用案を検討するため、清掃事業に不可欠な清掃車庫等の公共施設を敷地内で再整備することを前提に、地域活性化や新たな賑わいの創出等の観点から、事業の可能性について調査を行ったものである。その結果、住宅機能を核とした施設構成、商業機能を核とした施設構成、道の駅的施設といった3つの活用イメージを示している。

また、過去の調査では、敷地全体での活用や公共施設との複合化など、今回の調査とは異なる条件で活用検討を行い、ものづくりサポートセンター機能や大学等の教育機能、スポーツ・レジャーの拠点機能など、今回の調査にはなかった機能も示されている。

今後の活用検討にあたっては、当該跡地の活用の効果を最大限に高めるために、今回の調査で示された3つの機能のほか、これまでの調査で抽出された様々な機能も、選択肢の一つとして、多面的・多角的に検討を進めていくことが必要である。

さらに、可能な限り民間事業者が進出しやすい環境を整えるためにも、必要な公共用途・機能については最小限に留めることも必要である。

当該跡地への施設整備にあたっては、地域への貢献や集客性、波及効果などを加味するとともに、当該跡地周辺の地域性を考慮し、広く区民や来街者のニーズに対応した機能を導入することで、北部地域のみならず、本区の魅力のさらなる向上に繋げることができる。

今後、これまでの調査結果を踏まえながら、北部地域のみならず全区的な視点から、議会や地域住民と真摯に協議を進め、魅力的なまちづくりに資する活用を図るべく更なる検討を進めていく。

